

2006年度(平成19年3月期) 決算説明会

2007年5月11日

住友金属鉱山株式会社
取締役執行役員経営企画部長
中里 佳明

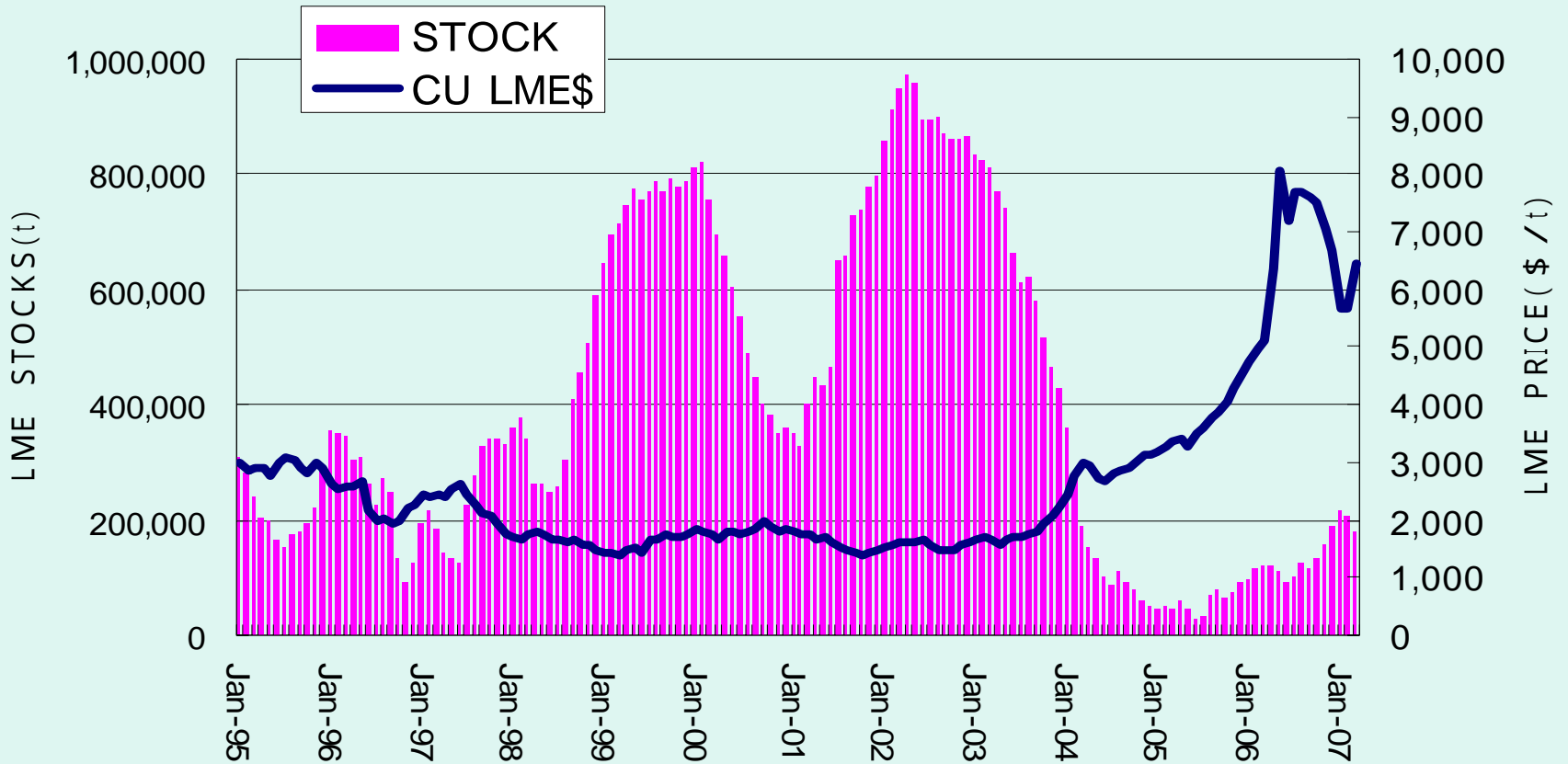
目 次

ページ	項 目
3	・ 価格・為替推移
9	・ 業績推移
13	・ FY06 vs 05
20	・ 03中計主要戦略の達成状況
36	・ FY07予想 vs 06

· 價格、為替推移

- 1. 銅価格・在庫推移 (Copper LME Price, Stock)

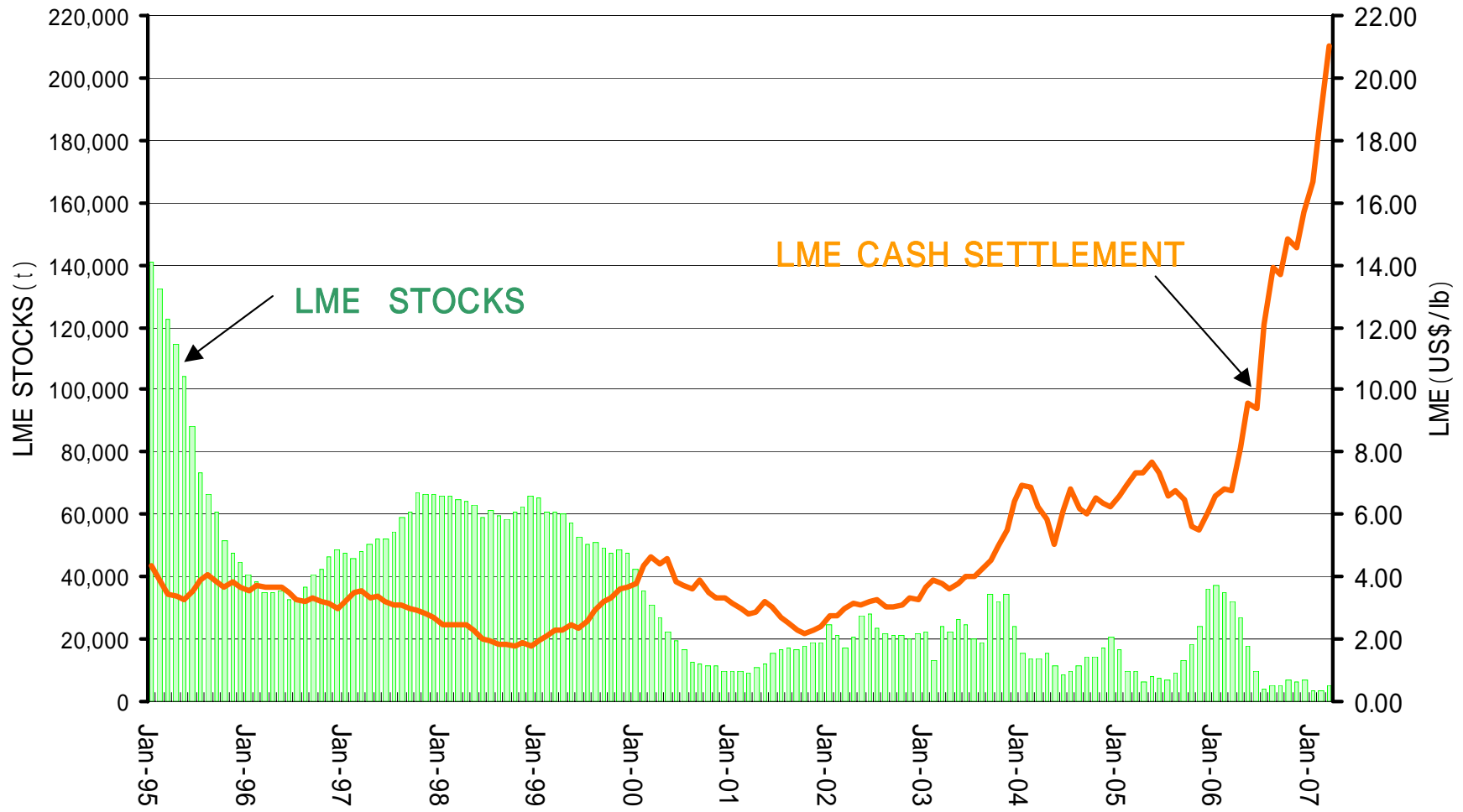
Copper LME Prices & Stocks



	FY04	FY05	1st. H	2nd. H	FY2006	FY2007 予想前提
\$ /t	3,000	4,097	7,440	6,501	6,970	6,000
¢ /lb	136.1	185.8	337.5	294.9	316.2	272.2

- 2 . ニッケル価格・在庫推移 (Nickel LME Price, Stock)

Nickel LME Prices & Stocks

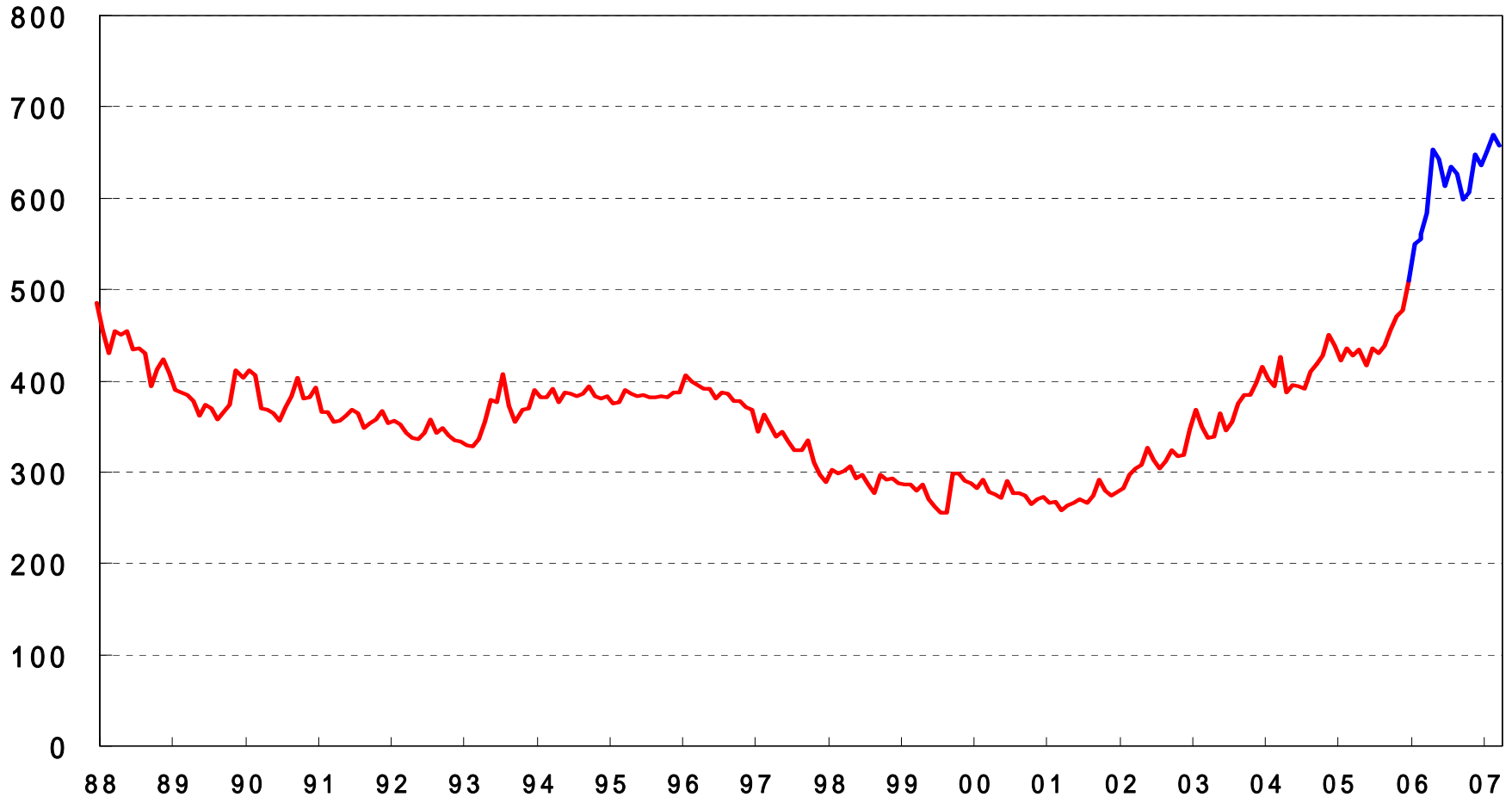


	FY04	FY05	1st. H	2nd. H	FY2006	FY2007 予想前提
\$/lb	6.34	6.63	11.13	16.91	14.02	16.00

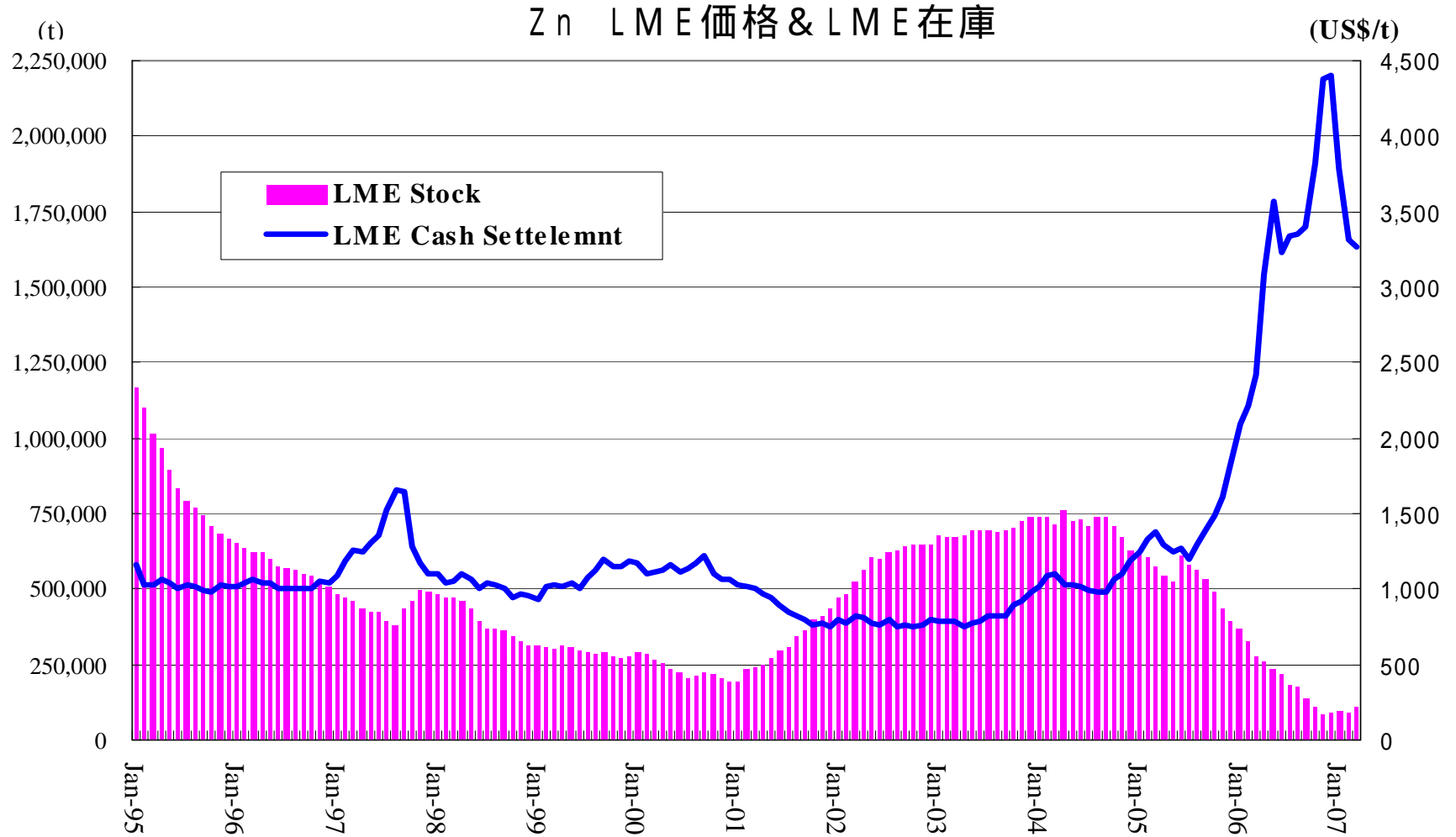
- 3. 金価格推移 (Gold Price)

	FY04	FY05	1st. H	2nd. H	FY2006	FY2007 予想前提
\$/Toz	414.0	476.6	624.8	632.4	628.6	620

\$/Toz

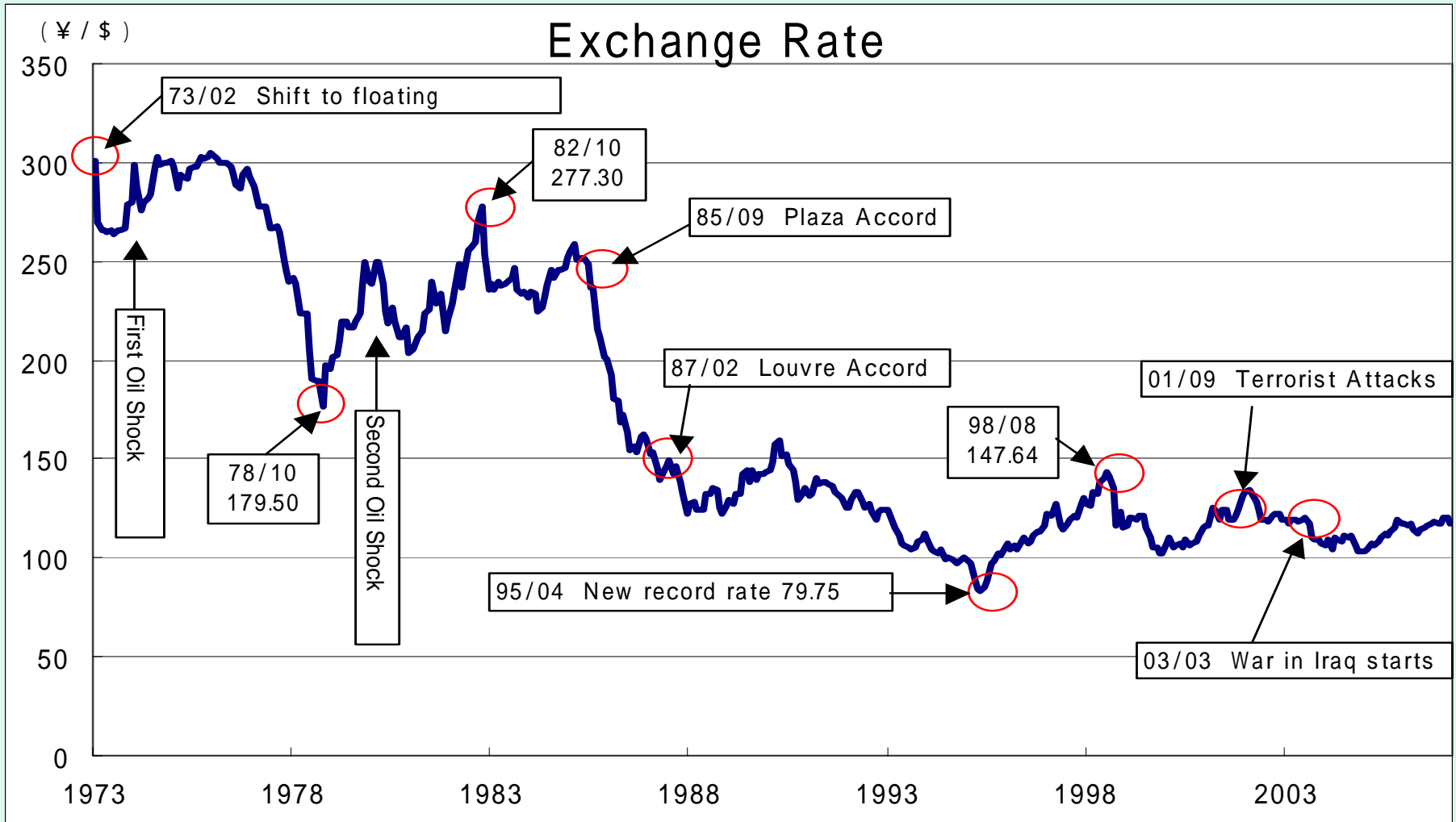


- 4. 亜鉛価格・在庫推移 (Zinc LME Price, Stock)



	FY04	FY05	1st. H	2nd. H	FY2006	FY2007 予想前提
\$/t	1,110	1,287	3,328	3,830	3,579	3,200

- 5. 為替 (¥/\$) 相場推移



	FY04	FY05	1st. H	2nd. H	FY2006	FY2007 予想前提
¥/\$	107.54	113.32	115.38	118.67	117.03	110.00

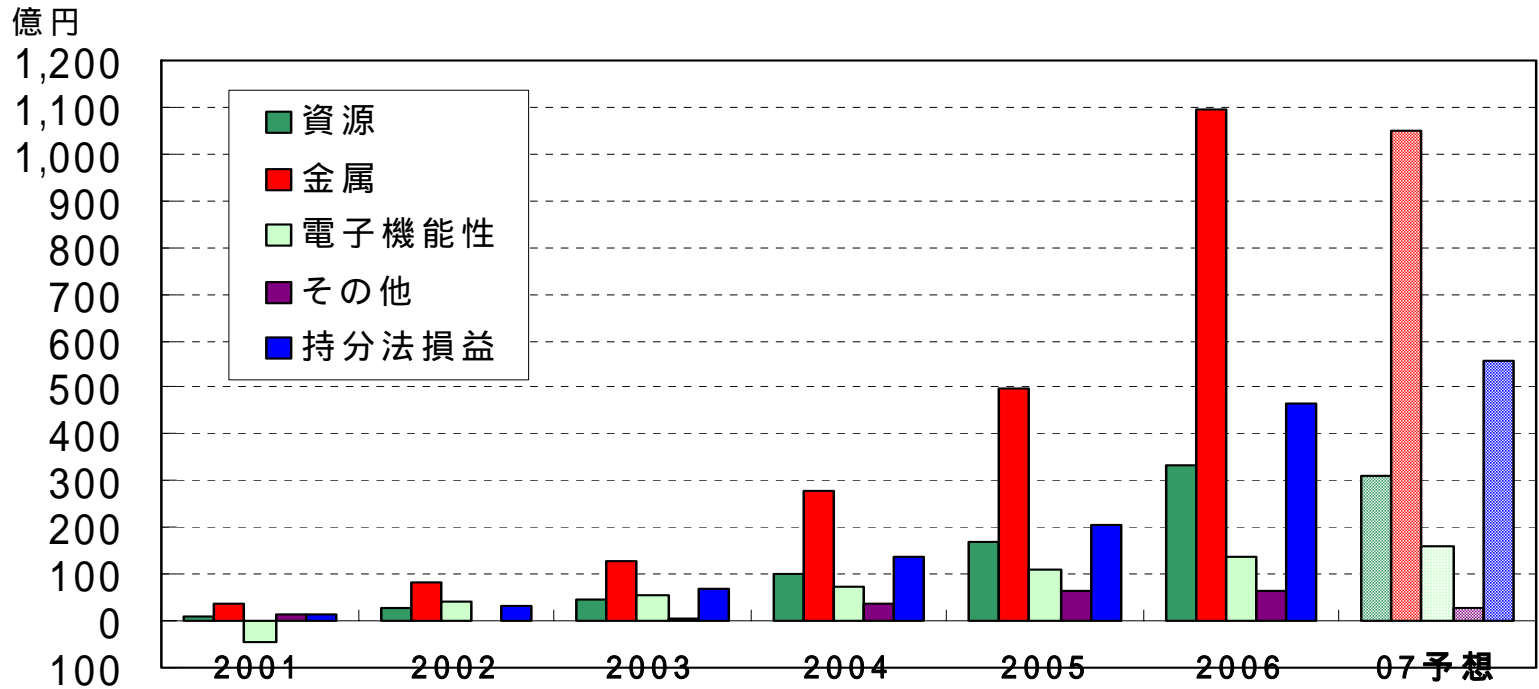
・ 業績推移

- 1. 連結業績推移

(億円)
(100Millions of JPY)

	FY04	FY05	FY06	中計FY06 Mid Year Plan	中計FY09 Mid Year Plan
売上高 Sales	4,846	6,256	9,668	4,800	6,800
営業利益 Operating Profit	479	828	1,626	330	760
経常利益 Recurring Profit	545	997	2,053	350	1,000
当期利益 Net Income	370	628	1,261	250	640
一株当り当期利益(JPY) Net Income / Share	64.77	109.96	220.49	NA	NA
一株当り配当金額(JPY) Dividend / Share	8.00	14.00	27.00	NA	NA
¥/ \$	107.5	113.3	117.0	110.0	110.0
Copper (¢ /lb)	136.1	185.8	316.2	90.7	181.4
Nickel (\$/lb)	6.34	6.63	14.02	3.50	7.00
Gold (\$/Toz)	414.0	476.6	628.6	320.0	550.0
Zinc (\$/t)	1,110	1,614	3,579	950	2,250

- 2. 業績推移 (セグメント営業利益、持分法投資利益)



	FY2003	FY2004	FY2005	FY2006	FY2007予想
¥ / \$	113	108	113	117	110
Cu(¢ /lb)	92.8	136.1	185.8	316.2	272.2
Ni(\$/lb)	5.10	6.34	6.63	14.02	16.00
Au(\$/toz)	377.6	414.0	476.6	628.6	620.0
Zn(\$/t)	899	1,110	1,614	3,579	3,200
TC/RC(90¢ /lb)	58/5.8	43/4.3	85/8.5	95/9.5	60/6.0

- 3. FY06決算 vs 03中計

(FY06 vs. 3-year plan)

目標経常利益を達成

FY06経常利益 2,053億円

前提を修正

金属価格 1,669

為替 70

資材単価up + 121

その他 65

修正後06損益 370

03中計経常利益 (FY06)

VS 350 億円

. FY06 v s 05

- 1. 経常利益比較 (FY06 vs 05)

経常利益 + 1,056億円 (2,053 997)
(Recurring Profit, 100 ¥ mil.)

1. 相場要因 + 820億円

- 1) 在庫評価影響 20億円 (FIFO + Price up)
先入先出法における金属価格上昇の影響
- 2) 非鉄金属相場高 + 860億円 (Higher price)
Cu +487、Ni +332、Au +40
- 3) 為替差 + 50億円 (Weaker ¥)
+ 3.7 ¥/\$ (円安)
- 4) その他 70億円 (T/C,R/C & others)
原料・販売条件 30、デリバティブ評価損益 40

2. 資源・金属プロジェクト効果 + 207億円

電気銅増産、CBNC、セロベルデ・オホス権益取得による増益効果
(Fruits of strategies in Resource , Metals)

- 1. 経常利益比較 (FY06 vs 05)

3. 資源・金属以外の事業の業績伸張 + 82億円

1) 営業利益 +36 (Op. profit of other segments)

電子機能性 +24 (2層めっき基板、電池材料、パッケージ好転)

住建 ±0 (シボレックス)

その他 +12 (NCC等)

2) 持分法損益 (海外鉱山等以外) +46

(Equity method (other than mines))

海外鉱山等は「1. 相場要因」に計上。持分法損益全体は、+248億円

(Equity method total)

4. その他 53億円

(Others)

- 2. 06 vs 05 (セグメント営業利益)

億円

資源 +164	SMM(単独)の売上総利益 +43(Au@upなど)、 SMMアリゾナを中心とした海外銅鉱山会社+147、 Pogo 19(電力設備焼損事故による減産)など
金属 +599	SMMの売上総利益 +549 Cu事業 +78 : 価格・条件差+166、数量差+27、在庫評価影響 118など Ni事業 +405 : 価格・条件差+224、在庫評価影響 +106、副産品 +48など その他 +66 : Zn価格上昇 +63
電子・ 機能材 +24	2層めっき基板を中心に全体が増販。金属価格の上昇が原材料費高騰につ ながり収益を圧迫。
建材 ±0	シボレックス(ALC)の販売堅調。原材料費、エネルギー価格上昇で業績は前 年度並み。
その他 2	使用済み触媒から回収するMo、Vの価格下落により減益。

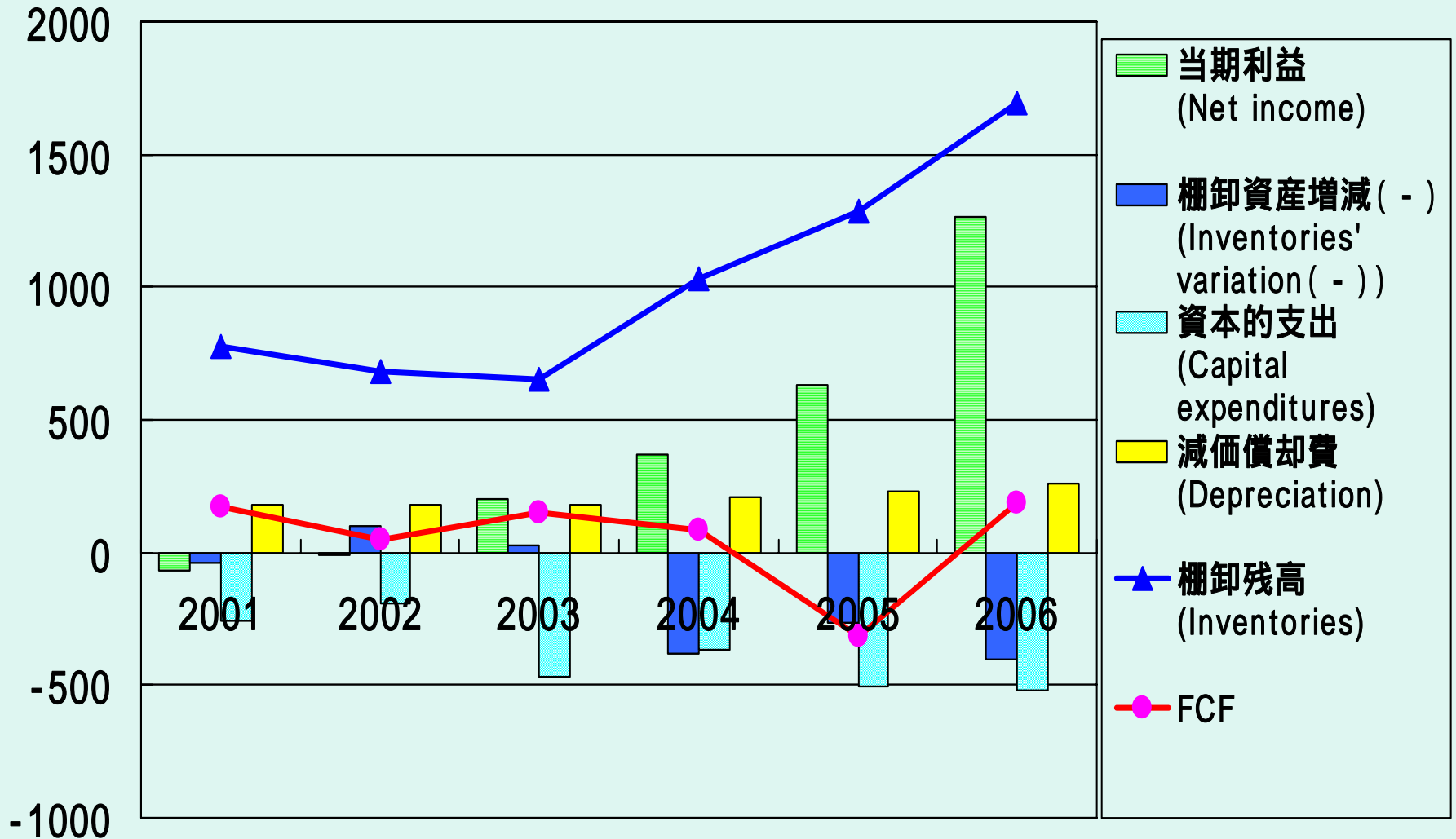
- 3. 財務体質の状況

(億円、100 Millions of JPY)

	FY2004	FY2005	FY2006	中計FY06 Mid Year Plan
総資産 Total ssets	5,739	7,726	9,292	5,850
有利子負債 Interest-bearing debt	1,605	1,909	1,899	1,650
有利子負債比率(%) Interest-bearing debt ratio	28.0	24.7	20.4	30.0
自己資本比率(%) Equity ratio	49.5	48.4	53.4	40.0
D/E ratio(times)	0.57	0.51	0.38	NA
棚卸資産 Inventories	1,028	1,289	1,693	NA

- 4. Cash Flow

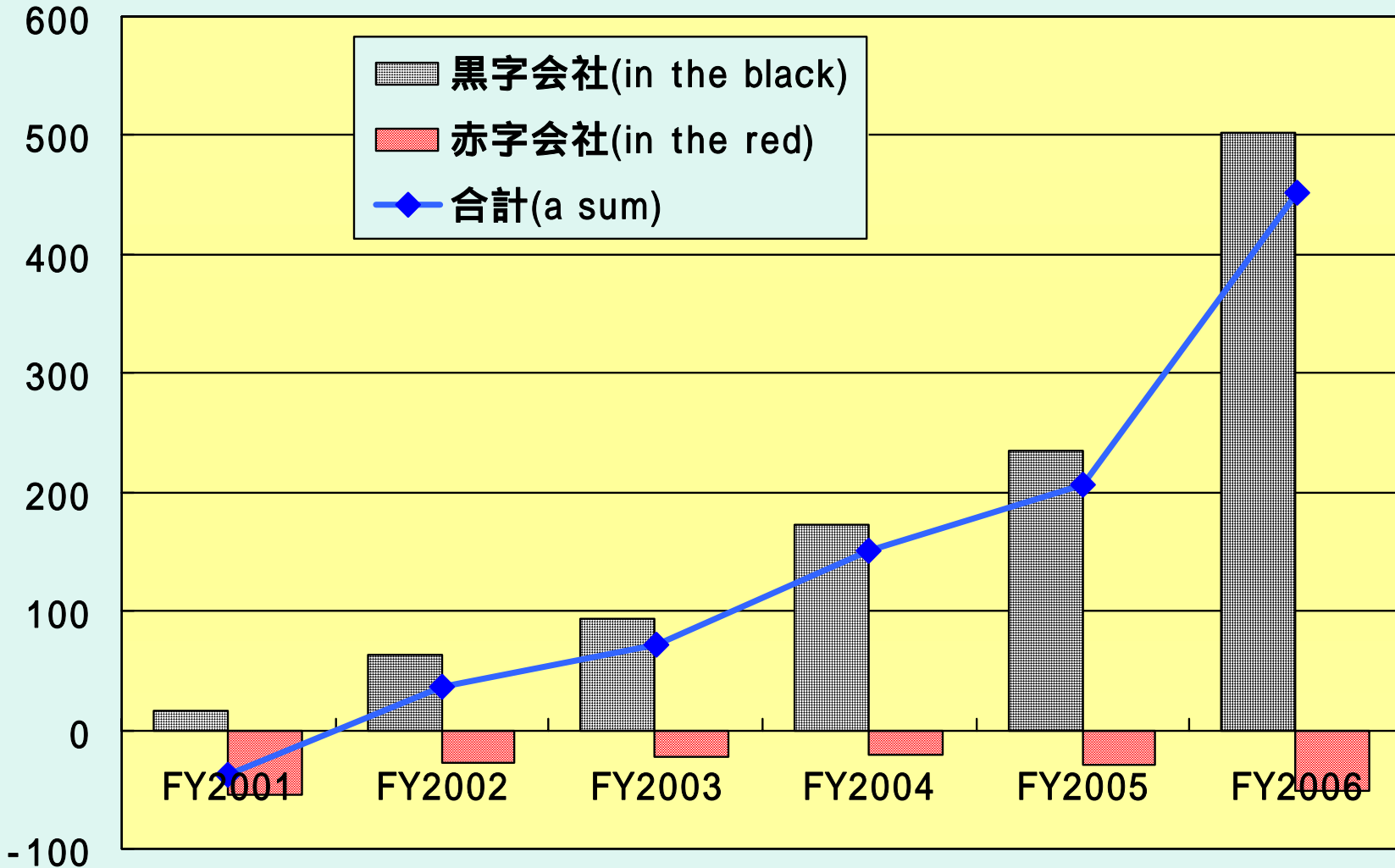
(億円、100millions of JPY)



- 5. 関係会社業績推移

(Performance of Subsidiaries)

(億円、100millions of JPY)



選択と集中 : 関係会社数推移 (Feb. 2000 Mar. 2007)

19 94社 - 清算売却撤退 40社 - 被合併3社 + 新設 22社 = 73社

.03中計主要戦略の達成状況

資源・金属事業

10年後の非鉄メジャークラス入りをめざす！

電子材料・機能性材料事業

商品ごとに世界トップクラスのシェアをめざす！

- 1. 資源・金属戦略 ~ 銅

製錬能力増強による競争力強化と資源確保

1. 東予工場(愛媛県) 300 450kt/Y(世界最大級)
2. 銅資源確保 自山鉱比率(*) 4割 2 / 3へ
3. 金隆銅製錬所(中国 SMM 27%) 150 210 tk/Y
4. Pogo金鉱山の計画通りの遂行

*** 従来の定義: 権益を持つ鉱山からの調達量全量**

東予工場(銅製錬工場)

(Toyo plant Ehime JPN)



03中計目標 最終450Kt/Y目指して、FY06は410Kt/Y体制



実績

- FY05** 定期炉修時(5/15~6/19)の増強工事で365kt/Y体制。
- FY06** 11月の定期炉修時に410Kt/Y体制へ増強。
- FY07** 下半期には450Kt/Yレベルの操業度に到達。

総投資額:約290億円

Cerro Verde銅鉍山 (Peru)

2005年3月、Phelps Dodge社(当時)と本契約締結

住友の権益21%(うちSMM16.8%)



硫化鉍開発プロジェクトは2006年11月稼動開始。

総投資額 850US\$ mil.
(日本側投資額265 US\$ mil.)

生産量 180kt/Y (Cu量換算)

銅精鉍引取り権

当初10年間: 生産量 × 50%

従来基準の自山鉍比率で必要量の2/3確保に目処。
更に権益相当分だけで2/3をめざす。

金隆銅製錬所(中国・安徽省)

1995年、SMM資本参加(27%)、新製錬所建設。

電気銅生産能力推移

1997	2002	2005	2006	2007	2008
100	150	210	250	300	400Kt/Y

計画の210Kt/Yを超え、単独炉では中国最大の400kt/Yへ

Pogo金鉱山 (Alaska) SMM権益51%

推定埋蔵金量 : 152t 生産量 : 約12t/Y 投資額 : 378M \$

2006年2月、金の生産を開始。

同年10月、電力施設焼損事故で進捗一時中断。

2007年4月、追加工事が完了し、フル操業の80%以上を達成。

周辺の探鉱を継続。

- 2 . 資源・金属戦略 ~ ニッケル

- 1 . Coral Bayプロジェクト(フィリピン)の計画どおりの遂行**
- 2 . 新規ニッケル資源確保プロジェクトの推進**

Coral Bay ニッケルプロジェクト SMM権益54%

豊富な低品位酸化鉱からのニッケル回収に成功。
世界トップクラスのHPAL技術力を実証。



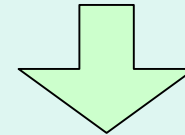
総投資額 180US\$ mil.

生産能力 10kt/Y

2005年4月 商業生産開始

2005年11月 設計能力での生産を達成

2006年生産量 8Kt/Y



第二工場の建設に着手。

総投資額 285US\$ mil.

生産能力 10kt/Y

生産開始 2009年4月

Goroニッケルプロジェクト(New Caledonia)

2005年4月、Inco社(当時)と本契約締結。

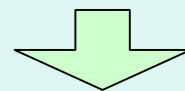
日本側権益 21%(SMM 11%、三井物産 10%)

当初計画

総投資額 1,878US\$ mil.

生産量 約60kt/Y(Ni)

生産開始予定 2007年10-12月期



2007年4月26日 CVRD発表

総投資額 3,212US\$ mil.

生産量 約60kt/Y(Ni)

操業開始予定 2008年末



新規HPALプロジェクト ~ タガニート・プロジェクト(フィリピン・ミンダナオ)

2007年3月、Taganito Mining社とのFeasible Study契約に調印

SMMのHPAL技術を用いた第二のニッケル酸化鋳製錬Pj

投資総額：10億\$以上

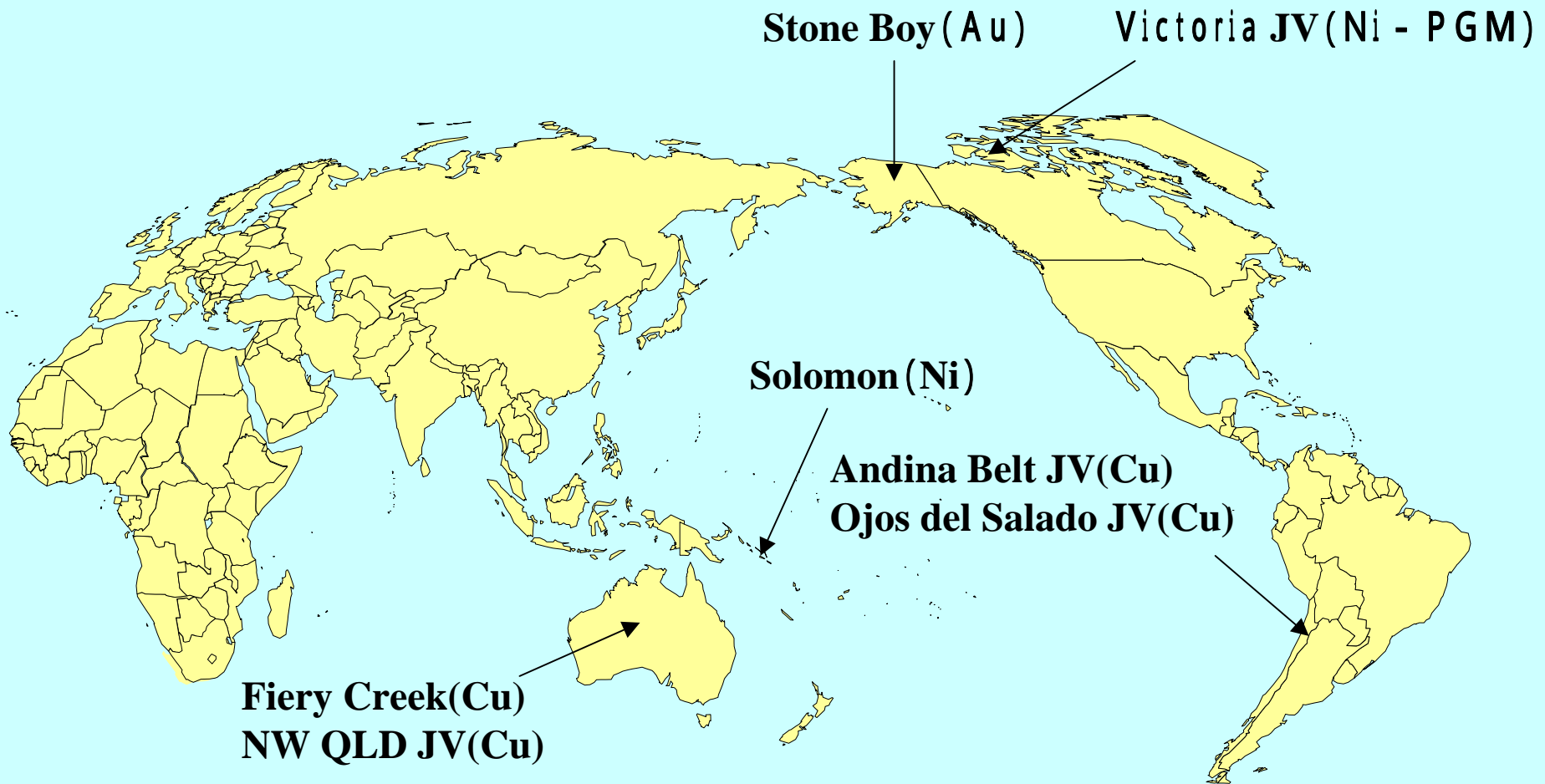
生産量：30Kt/Y(Ni)、2.5Kt/Y(Co)

生産期間：2012年から約30年間

生産品の用途：SMMニッケル工場(愛媛)で電気ニッケル、
電気コバルトに製品化。

- 3 . 資源・金属戦略 さらなる資源確保

実施中の探鉱プロジェクトの一部



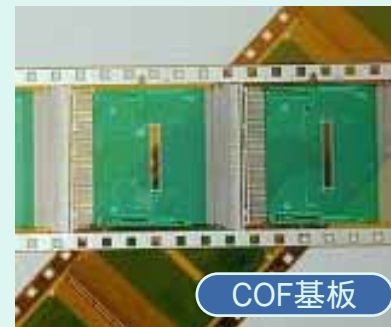
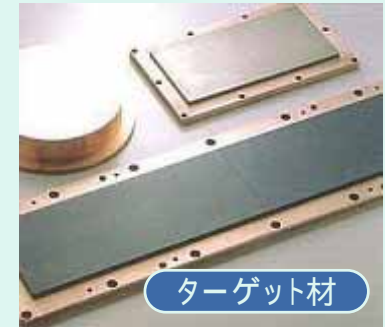
ソロモン探鉱プロジェクト



CBNC、タガニートに次ぐHPALプロジェクト。2009年度、FS作成をめざす。



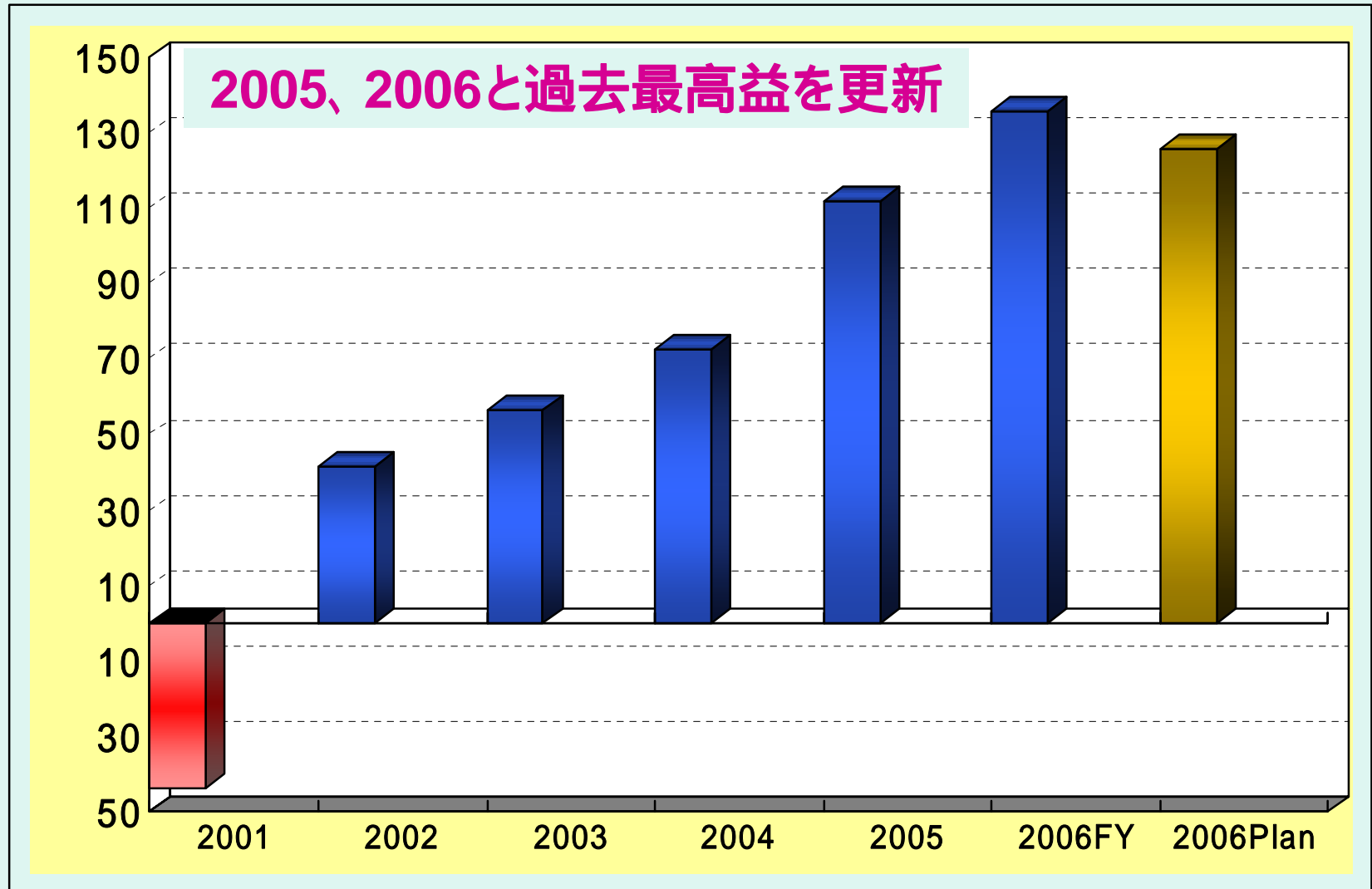
- 4 . 電子材料・機能性材料戦略



- 4 . 電子材料・機能性材料戦略

セグメント営業利益の推移

億円



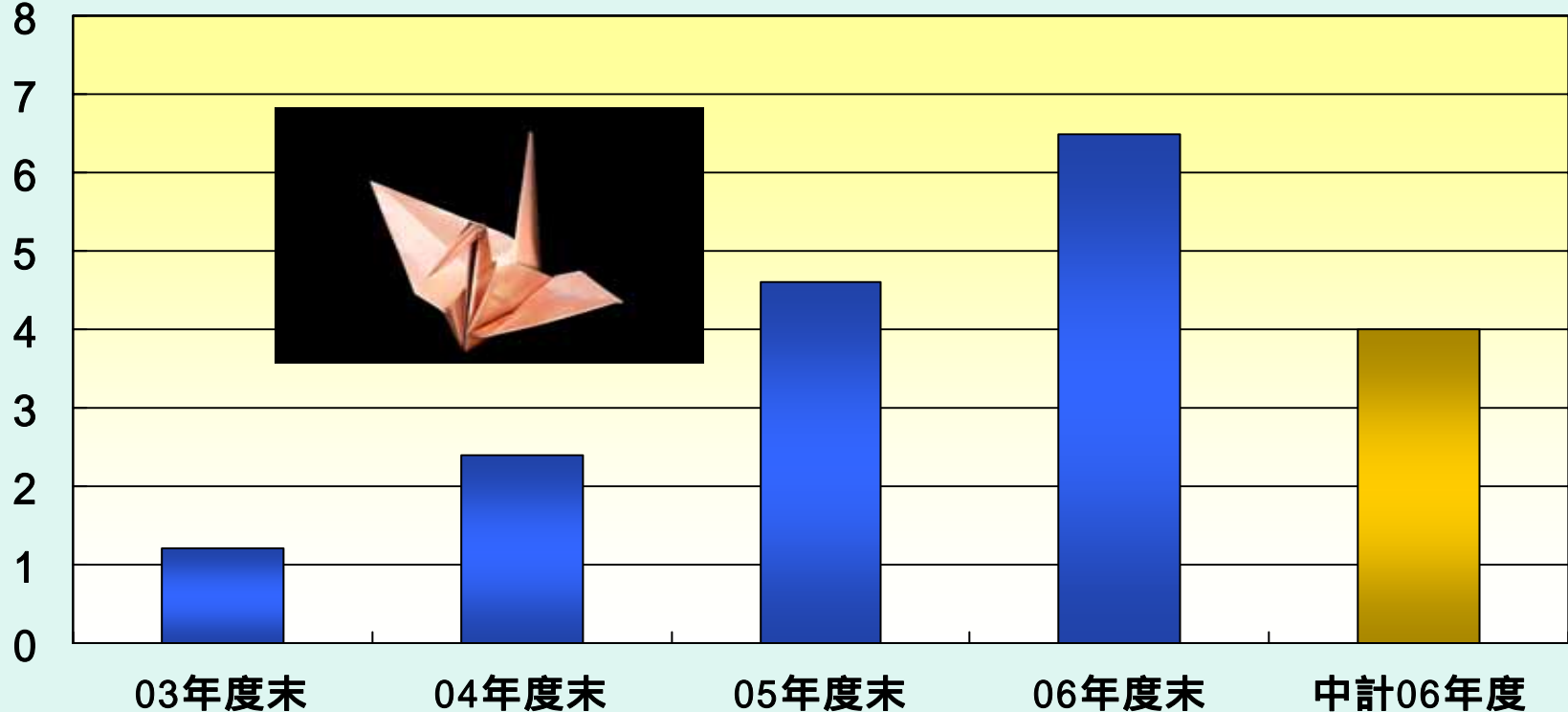
- 4 . 電子材料・機能性材料戦略

2層めっき基板 (Copper clad polyimide)

液晶パネルの大型化 × 高細密化 = 2層タイプCOF化率の急上昇
(Chip on Film)

当社材がデファクトスタンダード

(百万m²/年、millions of m²/Y) <2層めっき基板生産能力>

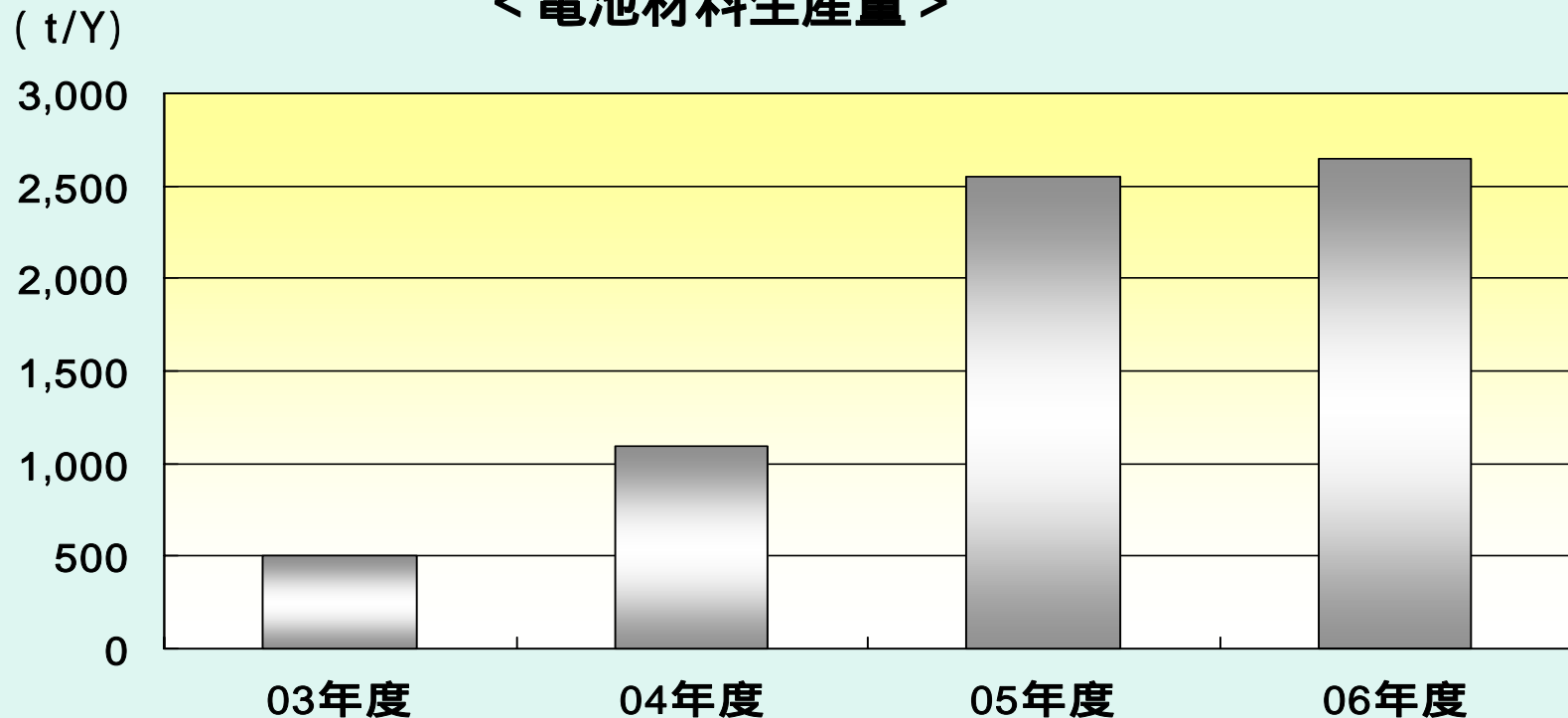


- 4 . 電子材料・機能性材料戦略

電池材料 (Cathode materials for batteries)

ハイブリッドカー向け水酸化ニッケルでトップシェアを維持。
車載、民生用の次世代材料としてLi系正極材の生産開始。

< 電池材料生産量 >



- 4 . 電子材料・機能性材料戦略

ボンディングワイヤー (中国市場対応)

目標 : 2004年度工場建設

実績 : 04/1、中国での生産拠点稼働

リードフレーム

世界金額シェア : 06目標 14% vs 06実績 14%

世界数量シェア : 06目標 25% vs 06実績 25%

(実績はSMM推定)

. FS07予想 vs. 06

- 1. FY07連結業績予想 (億円) (100Millions of JPY)

	FY04	FY05	FY06	FY07予想 Forecast	07 - 06
売上高 Sales	4,846	6,256	9,668	9,600	68
営業利益 Operating Profit	479	828	1,626	1,550	76
経常利益 Recurring Profit	545	997	2,053	2,000	53
当期利益 Net Income	370	628	1,261	1,280	19
一株当り当期利益(JPY) Net Income / Share	64.77	109.96	220.49	221.96	1.47
一株当り配当金額(JPY) Dividend / Share	8.00	14.00	27.00	30.00	3.00
¥/ \$	107.5	113.3	117.0	110.0	7.0
Copper (¢ /lb)	136.1	185.8	316.2	272.2	44.0
Nickel (\$/lb)	6.34	6.63	14.02	16.00	1.98
Gold (\$/Toz)	414.0	476.6	628.6	620.0	8.6
Zinc (\$/t)	1,110	1,614	3,579	3,200	379

- 2. 経常利益比較 (FY07予想 vs 06)

経常利益 53億円 (2,000 2,053) (Recurring Profit, 100¥ mil.)

1. 相場要因 180億円

1) **在庫評価影響** 170億円 (FIFO + Price down)

先入先出法における金属価格低下の影響

2) **非鉄金属価格差** +170億円 (Price)

Cu 149、 Ni + 323、 Au 2

3) **為替差** 90億円 7¥ / \$ (円高) (Stronger ¥)

4) **原料販売条件差** 90億円

おもに銅原料条件の悪化 (T/C,R/C & other conditions and terms)

2. 資源・金属プロジェクト効果 +220億円

電気銅増産、CBNC、セロベルデ・オホス、ポゴによる増益効果。

(Fruits of strategies in Resource , Metals)

3. その他 93億円 (NCC 減益 (Mo,V @down) など) (Others)

上記1～3のうち持分法投資利益は92億円 (559 467) (Equity method)

同じく、減価償却制度変更の影響は 10億円程度 (Depreciation)

- 3. 07 vs 06 (セグメント営業利益)

(億円)

<p>資源 25</p>	<p>SMM単独の売上総利益減 17: Au@down、為替差、探鉱費増。 Cu@downを海外鉱山の増産でカバー。</p>
<p>金属 46</p>	<p>SMM単独の売上総利益減 103 Cu事業 199 : 価格・条件差 182、在庫評価影響 76、数量差 65など Ni事業139 : 価格・条件差+240、数量差+40、在庫評価影響 68、為替差 51など その他 43 : Zn@down 12など その他(プロジェクト効果、販管費増等) + 57</p>
<p>電子・ 機能材 + 25</p>	<p>需要堅調。2層めっき基板の増強などで増益。</p>
<p>その他 36</p>	<p>使用済み触媒から回収するMo、Vの価格下落、核燃料再処理施設建設プロジェクトの完遂など。</p>

「その他」には従来の住宅・建材セグメントを含む。

- 4. 価格等 sensitivity

(億円, 100 ¥ million)

メタル	変動幅	FY2006	FY2007
Cu	± 100 \$/t	11 / 16	11 / 18
Ni	± 1 \$/lb	60 / 80	60 / 80
Au	± 30 \$/toz	11 / 11	14 / 14
¥/\$	± 1 ¥/\$	5.5 / 5.5	10 / 10

営業利益 / 経常利益 (Operating profit / Recurring profit)

ご注意

本資料は、証券取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載されている将来の予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控えくださいます様お願いします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。